

◎10月の行事予定◎



平成30年度 10月
No.6 (H30年(2018年)9.28)
[発行] 明石市立沢池小学校

「待つ」ことは「我慢する」こと

校長 近藤 しのぶ

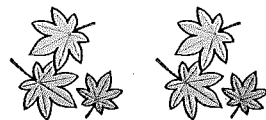
我が家には、8歳になる犬がいます。飼い主の私が言うのもおかしいのですが、たいへん利口な犬です。餌やおやつを与えるときには「よし」と言うまでじっと待っています。甥は時々「よっしゃあ」とか「ヨット」など、「よ」で始まる言葉を言って意地悪をしますが、我慢して待っています。

『人生の「ねじ」を巻く77の教え』という本によると、動物には「待つことのできる動物」と「待つことができない動物」がいるそうです。猫やネズミは、餌を前にして「おあずけ」はできにくいそうです。イヌの場合は、簡単な訓練で20秒は待てるそうです。サルは1分、チンパンジーは5分、待つことができるとありました。イヌの中でも盲導犬は「待て」と命令されれば、餌の前で1時間も2時間も待つことができるそうです。いずれにしても、「待つ」という行為は高等な精神活動を伴うので、高等な動物しかできないそうです。また、「待つ」という行為は言い換えれば「我慢する」といってもよいでしょう。

では、一番高等な動物と言われる私たち人間はどうでしょうか。最近は日々の生活や仕事に忙殺され、せっかちになる度合いが高まっており、待てない(=我慢できない)社会になりつつあります。虐待、性犯罪、窃盗など様々な事件を見聞きするたびに、大人のほうが「待つ」という行為、つまり「我慢すること」ができなくなっているような気がします。

子育てについて考えてみると、もう少し待てば子ども自身でできるのに親が手助けをするという「過保護」や、子どもの気持ちを無視して、あれこれ口うるさく指図したり強制したりするという「過干渉」になっていないでしょうか。この「過保護」と「過干渉」には共通点があります。それは、わが子がかわいいばかりに、じっと待つことができず、手を出したり口を出したりしてしまうことです。つまり、「我慢する」ことができないのです。「子育ては待つこと」とよく言われます。子どもが自分でやろうとしていることにはあまり手や口を出さずに、心にゆとりをもって、また、長く構えて「待つ」ことに心がけ、子どもを温かく見守っていくと、子どもも変わっていくのではないのでしょうか。

(参考:『人生の「ねじ」を巻く77の教え』
日東精工株式会社企画室著)



日	曜	行事予定	日	曜	行事予定
1	月	朝会 6年14:00下校	17	水	市内特別支援学校・学級合同運動会
2	火	6年修学旅行 ブックママ	18	木	
3	水	6年修学旅行	19	金	
4	木	6年10:30登校 14:00下校	20	土	
5	金	諸費引き落とし	21	日	
6	土		22	月	5年自然学校 1年楽しい給食ケーブルテレビ撮影
7	日		23	火	5年自然学校 ブックママ 1年楽しい給食ケーブルテレビ撮影
8	月	体育の日	24	水	5年自然学校
9	火	視力検査(1年) 交通安全教室 ブックママ 教育実習開始(11月2日まで)	25	木	5年自然学校
10	水	消費者教育出前講座(2, 4, 5年) 2年生以上6校時まで授業(11日と振り替え) 硬筆書写展(16日まで) 視力検査(2年)	26	金	5年自然学校
11	木	視力検査(3年) 全学年14:45下校	27	土	沢池フェスタ(11:00~15:00)
12	金	視力検査(4年) 教育相談日	28	日	
13	土		29	月	委員会活動
14	日		30	火	音楽会体育館練習開始 代表委員会 2年町たんけん
15	月	集会 クラブ活動 視力検査(5年) 子ども安全の日	31	水	
16	火	視力検査(6年) 2年校外学習 ブックママ			

【11月の主な予定】

- | | |
|------------------------------|----------------|
| 1日(木) 4年校外学習 | 2日(金) 1年校外学習 |
| 5日(月) 諸費引き落とし 朝会 | 12日(月) クラブ活動 |
| 14日(水) 就学前健康診断(13:30~) | 16日(金) 6年連合音楽会 |
| 19日(月) 集会 4年生以上6校時(27日と振り替え) | 21日(水) 児童鑑賞会 |
| 23日(金) 勤労感謝の日 音楽会 月曜時間割 | 26日(月) 音楽会代休 |
| 27日(火) 5校時で下校 | 28日(水) 避難訓練 |
| 29日(木) 特別支援野外活動(30日まで) | |

【出来ない不安と出来た喜び】

最近職員室まで音楽会の練習をしている楽器の音が聞こえてきます。毎年思うことですが、本校の児童は本当によく努力し素晴らしい演奏を聴かせてくれます。今年も楽しみでなりません。

ただ歌声が職員室にあまり聞こえてこないのは、とても不思議に感じるがあります。自分自身が学生の頃、歌の練習をするとき、失敗して怒られるのが嫌で、声を出さなかったことがありました。しかし、どうしても出さなければならぬ場面がやってきた時結局まともに出来ませんでした。ただ、私よりも怒られていた友だちはとても上手になっていました。

結局、失敗することの不安から、もっと大きな失敗をしていたことが最後になって分かりました。私と同じように苦手なことに直面した時、人は逃げたくなることもあると思います。しかしその逃げるこそが、最も大きな失敗であることを理解し、失敗してもチャレンジしていくことで大きな喜びを手にすることが出来るのでしょね。

(教頭 辻 勝由)

